



令和2年3月24日、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック協議会組織委員会は、東京2020大会を延期することを発表した。そして、なにゆえか、この報道発表の流れに沿うように、東京都は前日の23日に16名、24日に17名、25日に41名、26日に47名、27日に40名、28日に63名、29日に68名と次々に陽性反応が「確認された」患者数の発表を開始した。

私個人は、令和2年2月28日、北海道知事が緊急事態宣言を行ったころに、東京都や首都圏における陽性反応が出た患者数が北海道よりも少ないことに合点がいかなかつた。そのころ、東京に出張に行くたびに「北海道から来られたのですか、大変ですね」とか、「雪祭りに来た中国人から感染したと言われていますね」などと言われると、「東京なんて毎日が雪祭りみたいなものですよね」とか「どうして北海道よりも東京の人数の方が少ないのか、わかりますか？」おかしいとは思いませんか？」などと答えていたものである。

私個人は、東京都は陽性反応が出

てしまつた患者の人数をタイムリーに次々と報道すると、東京2020が開催できない状況にいち早くなって実施せず、また、実施したとしても、発表を遅らせていたのではないかと思っている。それゆえ、「〇〇人の陽性反応が確認されました」との現在も続けられている主語がない報道発表に接するたびに、誰が確認したのか、検査結果が出た時からどのようなプロセスを経て誰が認識することで「確認された」という報道になるのかを明らかにしない限り、その報道の信憑性など国民は確認しようがないと思つている。そして、万が一、陽性反応が出た患者数の発表が、東京2020の中止を避けるため、恣意的な取り扱いが一部でも過去に認められたのであれば、かかる取扱自体がパンデミックの一因となつたと考えざるを得ない。

私個人の根も葉もない空論であると考えたいが、しかし、私たちは、森友学園問題で公文書が事後的・組織的に書き換えられ、その後、管理者が確認したものでなければ公文書にならないなどと公文書管理法

上、私たちは自分自身や自分の家族を守るために日々報道されてくる新型コロナウイルス報道についても、耳を澄ませなければならないと思う。

ところで、志村けんさんが亡くなられた後、ご遺族が志村けんさんのご遺体も確認できず、火葬され骨壺だけを受け取つたことが報道された。遺体からの感染を防ぐために遺体全体を非透過性納体袋に収容し密封され、そのまま火葬されたのだと思う。新型コロナウイルスに感染して死亡したご家族を持つご遺族は亡くなつた後においても、周囲からの不合理な偏見に悩み、さらになくなられたご本人のご遺体にも触れられず、見ることもできない状況にある。亡くなる際の医療現場に立ち会えないまでも、火葬される前には何か最後の別れができるものかと考へてしまう。

最後に、オンライン診療について

に基づくガイドラインをなし崩し的言及する。インターネット通信技術にされている現代という時代に生きているのである。従つて、少なくとも、ビデオ通話がすでに可能となつては、そこで、平成30年3月、厚生労働省はオンライン診療の適切な実施に関する指針を出し、いわゆる遠隔診療がある一定の条件で実施できるようにした。もちろん、その導入当初から、オンライン診療のデリットの大きな1つとして、触診などができず患者の症状を見落としてしまうという懸念が示されてきた。そして、現在でも、日本医師会は、新型コロナウイルスに感染していると疑われるような患者の初診に関し、オンライン診療を導入することは、視覚と聴覚のみの診察となり、医師が五感を使って診察ができずに不安であるとし、その導入に反対している。しかし、一方で多くの国民が各種の相談窓口に電話をしてもつながらず、つながつても形式的な対応をされ、また、医療機関からは事実上の診察拒否がされるという現状がある。このような現実を直視すれば、时限的であつても導入するのが急務であると考える。